

《担当者名》教授 / 小林 道也

【概要】

生体の各組織には、種々の薬物代謝酵素やトランスポータがそれぞれ合目的性を持って分布し、異物や有害物質に対する防御機構として重要な役割を演じている。これらの機能が徐々に解明されるのに伴い、医薬品の有効性を確保するためにこれらの機能性タンパクをターゲットとする医薬品の開発も進められている。本特論では、その現状について理解を深める。

【学修目標】

- ・ 医薬品の標的分子となる代謝酵素やトランスポータについて、例を挙げて説明できる。
- ・ 代謝酵素やトランスポータを標的とする医薬品の構造特性や体内動態特性を説明できる。
- ・ 体内の機能性タンパク質を標的とする新薬の開発状況について、具体例を列挙できる。
- ・ 機能性タンパク質を標的とするオーダーメイド医療の将来性について討議する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 3	標的分子としての代謝酵素	・ 代謝酵素を標的とする医薬品を列挙できる。 ・ 代謝酵素を標的とする医薬品の分子構造特性や体内動態特性について、例を挙げて説明できる。	小林 道也
4) 6	標的分子としてのトランスポータ	・ トランスポータを標的とする医薬品を列挙できる。 ・ トランスポータを標的とする医薬品の分子構造特性や体内動態特性について、例を挙げて説明できる。	小林 道也
7) 8	新たな標的分子としての機能性タンパク質	・ 現在開発が進められている医薬品が標的とする新たな機能性タンパク質について、例を挙げて説明できる。	小林 道也
9) 10	オーダーメイド医療の将来性	・ 代謝酵素活性やトランスポータ機能の変動要因について説明できる。 ・ 代謝酵素やトランスポータを標的とした創薬とオーダーメイド医療の関連性について、例を挙げて説明できる。	小林 道也

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【評価方法】

課題レポート(80%)、授業態度・出席状況(20%)

【教科書】

各講義毎にプリントを配付する。

【参考書】

なし

【学修の準備】

インターネットなどを通して予備知識を深めて講義に臨むこと。